

# 幸まちづくり

令和元年 10月1日発行  
89号  
幸まちづくり協議会  
☎ 23-9549



## HUG(避難所運営ゲーム)

9月15日(日)に開催され、総勢45名のご参加をいただきました。避難者の受け入れ対応に知恵を出し、話し合いましたが最大の関心事はトイレの問題でした。

市長も挨拶の中で、災害時は早めの避難、非常持ち出し袋へ「お薬手帳」のコピー等も入れてほしいと話されていました。

昨今、パワーの増してきた災害に、今一度いろいろな問題を考えたいものです。

安全・防災部会



## 敬老祝品の洗剤をお届け!

幸まちづくり協議会より  
9月17日(火)から、  
該当するご家庭に洗剤を  
お届けしました。

いつまでも

お元気で!



福祉部会

## 幸せの黄色いレシートキャンペーン

今回、2,200円相当の事務用品に使わせて頂きました。ご協力ありがとうございました。

毎月11日に「マックスバリュ川井町店」で、買い物をされると黄色いレシートが発行されます。黄色いレシートを、「幸まちづくり協議会」のボックスに投函してください。

レシートが必要な方は幸公民館でコピーいたします。

金額の1%が還元されますので、ご協力をお願いします。



## 住部会の研修

10月11日(金)に『武四郎記念会館』と『そだちの丘』のバスでの研修があります。

申し込みをされた方よろしく  
お願いします。お楽しみに!!



さいわい

寺子屋サロン



10月20日(日)に第3回寺子屋サロンを開催します。詳細は別紙回覧をご覧ください。

裏面も

ご覧ください

## スポーツの秋



10月の祝日と言えば『体育の日』これから、スポーツ大会が目白押しです。2020年東京オリンピック・パラリンピック・2021年三重とこわか国体・とこわか大会。そして三重県初のフルマラソン「みえ松阪マラソン2020」等、競技する人も応援する人も、ワクワクドキドキ。

皆、体調管理に気をつけて、ステキな夢をみましようね。  
大黒田町 大野智香子



バトンちゃん

次回走者は桜町の鈴木君枝さんをお願いします。

編集後記

天高く馬肥ゆる秋!  
健康に気をつけて、自分なりの『秋』を満喫したいものです。  
(M)

☆お知らせ☆

- \*福祉部会  
10月4日(金)  
19:00
- \*広報委員会  
10月11日(金)  
10:00
- \*文化部会  
10月24日(木)  
13:30

## 「詩吟」に挑戦してみませんか?

大きな声で健康維持(子どもも可)

練習日(月3回) 西林公民館  
●水曜日午後7時 ●土曜日午後1時半

日本耕道吟詠会

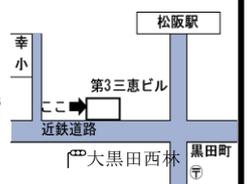
住所: 松阪市西黒部町1801-3  
連絡は加藤象山まで (090-7438-1122)



## 和氣司法書士・行政書士事務所

不動産登記(相続・売買・贈与等)  
商業登記・成年後見・債務整理  
お気軽にお問合せ下さい。

松阪市大黒田町1799番地3  
第3三恵ビル1階  
TEL 0598-31-1815  
司法書士・行政書士 和氣愛子



日本では、縄文時代には月を愛でる風習があったといわれます。十五夜の月見が盛んになったのは、平安時代、貞観年間(859~877年)ごろに中国から伝わりました。宮中行事としての月の宴が初めて開かれたのは897年とされています。

月を見ながら酒を酌み交わし、船の上で詩歌や管弦に親しむ風流な催しだったようです。

貴族たちは、水面や盃の酒に映った月を愛でたといわれています。

庶民が広く十五夜を楽しむようになったのは、江戸時代に入ってからで、貴族のようにただ月を眺めるのではなく、むしろ収穫祭や初穂祭の意味合いが大きかったようです。



### 十三夜月(栗名月) 2019年の十三夜月は10月11日です。

中秋の名月(2019年は9月13日でした)は旧暦8月15日に見える月のことですが、名月といえばもう一つ別の名月が存在します。それは十三夜月と呼ばれるもので、旧暦9月13日に見られる月のことです。今年の10月11日、偶然この日は月が地球から最も遠ざかる日にあたり、例年よりも小さな十三夜月になるでしょう。

ちょうどこの頃は栗が実る時期であることから、栗名月と呼ばれることがあります。

ふたつの名月がありますが、片一方だけしか見ないのは「片見月」といって、良くないこととされているそうです。

十三夜は「豆名月」や「栗名月」と呼ばれ、13個の団子と、豆や栗を供えていました。

お月見は、まさに、農耕の収穫祭としての一面もあったようです。



### 月見団子

月見団子は望月(満月)に見立て、丸く形作ります。伝統的なお供えの方法は、月がよく見える場所に台を置き、三方や大皿に15個の団子をうず高く盛ります。

里芋やさつまいも、枝豆、栗などの秋に収穫を迎える野菜と、すすき・秋草を供えて名月を祭ります。

なぜすすきを飾るのかご存知でしょうか。背の高いすすきを飾ることで、神さまが降り立つ「依代(よりしろ)」とされているためだそうです。

十五夜団子は満月を思わせるように大きめに形づくりします。小さい団子は「仏団子」と呼ばれ、仏壇に供える団子を思わせるため嫌われます。

江戸時代の年中行事を記した『東都歳事記』には、十五夜の朝に団子を作る記述があり、団子の大きさは三寸五分(約10cm)とあります。ずいぶん大きな団子ですね。

十三夜月は満月よりも少し欠けています、それも趣があっていいと思いませんか。

秋の夜長、少しばかりご家庭でお月見をしてみたいはいかがでしょうか。

